



香川大学大学院 地域マネジメント研究科

事務室 香川大学法学部・経済学部学務第2係
〒760-8523 香川県高松市幸町2-1
tel.087-832-1813
URL <http://www.kagawa-u.ac.jp/>

沿革

大正12年(1923年) 官立高松高等商業学校を現校地に創立
昭和19年(1944年) 高松高等商業学校を高松経済専門学校に改称
昭和24年(1949年) 香川大学経済学部発足
昭和56年(1981年) 香川大学法學部発足
平成15年(2003年) 香川大学大学院地域マネジメント研究科設立認可
平成16年(2004年) 連合法務研究科とともに大学院地域マネジメント研究科創設
平成21年(2009年) 大学基準協会経営系専門職大学院の適合認定取得
平成26年(2014年) 創立10周年記念行事開催
平成26年(2014年) 大学基準協会経営系専門職大学院の適合認定取得

2017年4月1日発行

地域新時代を拓くプロフェッショナルになる

香川大学大学院 地域マネジメント研究科 2017年度要覧

Business School!

国立大学法人香川大学大学院 地域マネジメント研究科



香川大学大学院地域マネジメント研究科は、
わが国初の地域活性化に貢献する教育研究を目的とした
経営系専門職大学院として開校し、14年目を迎えました。

“ ビジネスと地域公共領域の融合で地域のリーダーを養成します。 ”



ご挨拶

香川大学大学院
地域マネジメント研究科長
原 真志

日本の経済と社会を建て直すため、地域の役割が注目されており、国をあげて地方創生の取組みが行われています。また、各地にある国立大学は地域社会における中心的役割が求められる時代になっており、香川大学も大学全体として地域貢献を進めています。香川大学大学院地域マネジメント研究科は、中国四国地方で唯一のMBAが取得できる経営系専門職大学院として発足し、国立大学としては、一橋大学、神戸大学、九州大学に次いで全国で4番目に、2004年に開校したビジネススクールです。大学基準協会による経営系専門職大学院の認証を受けており、要求される研究教育水準を満たしているという評価結果をいただいている。地域活性化に貢献する教育研究に焦点をあてた初めてのビジネススクールであり、そのことが他に類を見ない特徴となっています。

今や、日本全体が地方を元気にする取組みを重視し、大学が地域を重視する土壤が整って来ていますが、本研究科の創設当時は、「国際化の時代に、なぜ地域なのか」「地方都市にそんなニーズがあるのか」と問われ、こうした地域に焦点をあてた試みを理解していただくことは容易ではありませんでした。しかし、心ある方々の支援を得て開校することができ、今年で14年目を迎えています。地域マネジメント研究科には、早くから地域活性化のための教育研究に取り組み、切り開いてきたパイオニアとしての自負があり、理解していただけた方々とともに立ち上げの困難を耐え抜いた強さがあります。そして、学生と教員が共に培ってきた経験の蓄積は本研究科の大きな財産となっています。今、本研究科の試みは多くの方に共鳴していただき、350名を超える修了生を輩出し、それぞれの現場でご活躍いただいている。この後の10年、地域活性化への取組みをさらに大きく実らせ、発展させなくてはなりません。地域マネジメント研究科は、10年余りの期間に取り組んで来た経験とネットワークを最大限に活かして、さらに地域に貢献して参ります。

学生の多くは昼間に仕事をしながら熱心に学ぶ社会人です。最近は女性の割合が増えており、多様な視点で力を発揮しております。本研究科は、地域を元気にするという共通のミッションの下、民間企業だけでなく、自治体やNPOの方々も一緒に学ぶ場となっており、民間と公共をクロスした学習とネットワーク形成の貴重な場、組織の垣根を越えて本気で新規事業や地域を語り、深く交流できる「第二の青春」とも言える充実した生活ができる場となっています。

2年間のプログラムを修了すると、世界的に通用し、ビジネス界で重視される経営修士（専門職）、MBA（Master of Business Administration）の学位が授与されます。香川大学大学院地域マネジメント研究科で学び、地域のリーダーとして活躍していってください。

地域マネジメント研究科の概要

学位名称 経営修士（専門職）
MBA (Master of Business Administration)

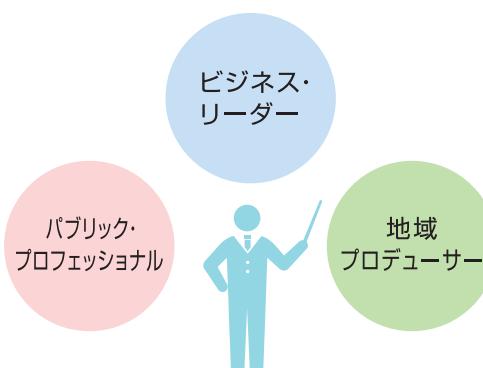
学生定員 入学定員 30名／収容定員 60名

授業時間 昼夜開講
平日(月曜日～金曜日)の夜間の授業時間帯
第1時限/18:20～19:50 第2時限/20:00～21:30
また土曜日にも授業を行うとともに、夏季などの休業期間に
集中講座を実施し、社会人に都合のよい時間割に配慮します。
さらに、自習サポートシステムを整備し、勉強の便宜を図ります。

標準修業年限 2年

修了要件 40単位以上の取得

養成する人材像

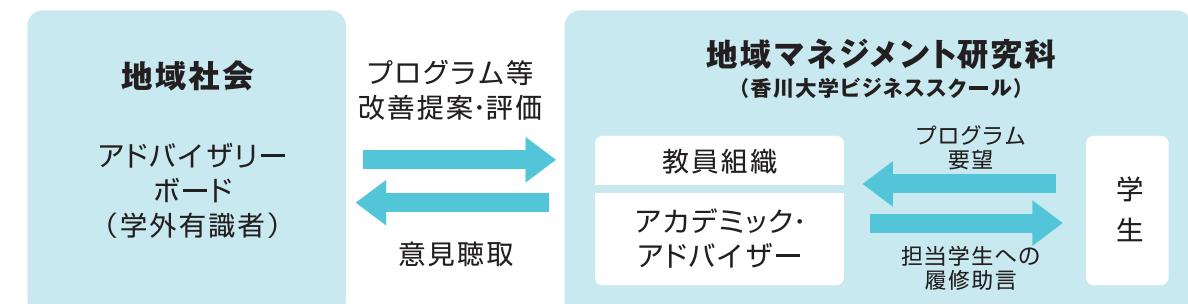


[ビジネス・リーダー]
企業の創造的変革を先導し、グローバルな視野を持ちながら地域に貢献する。

[パブリック・プロフェッショナル]
行政部門に新たな戦略と行動力をもたらす。

[地域プロデューサー]
地域の人々を巻き込み、地域の個性を生かした地域振興を図る。

学生と地域に開かれた組織



アドバイザリー・ボードでは、地域社会の期待や要請を研究科内のカリキュラムに反映させるため、毎年、地元を代表する経済界・行政の有識者と本研究科教員との意見交換会を開いています。

本研究科の教育理念とアドミッション・ポリシー(学生受入方針)

わが国全体の活力を上げるために、各地域がグローバルな視野を持ちながら、地域の資源を活用して発展していくことが求められています。また、地方分権の一層の進展が期待される中、官民が連携し地域を支え、地域が自立していくことが求められてきています。このような社会的要請を踏まえ、本研究科は、地域活性化に貢献する教育研究を通して、高い倫理観とグローバルな視野のもと、マネジメントや地域政策に関する能力を養うことで、高い志を持って地域を支え、かつマネジメントすることのできるリーダーを養成することを教育理念とします。したがって、本研究科では以下のような地域のリーダーを目指す人の入学を求めます。

- ①企業の創造的変革を先導し、グローバルな視野を持ちながら地域に貢献する「ビジネス・リーダー」
- ②行政部門に新たな戦略と行動力をもたらす「パブリック・プロフェッショナル」
- ③地域の人々を巻き込み、地域の個性を生かした地域振興を図る「地域プロデューサー」



ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

本研究科では、上記の教育理念に基づき、地域活性化に貢献する上で必要な基礎及び専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を企画・実行・発表する「総合力」を身につけ、国内外におけるマネジメントや地域政策の現場で活躍できる幅広い能力を備えた人材を育成します。本研究科を修了し、本学が送り出す経営修士(専門職)は、高い倫理観とグローバルな視野とともに、以下の能力を身につけている必要があります。

- ①社会一般の問題を定量的・数理的に分析し解決する能力
- ②地域を客観的に把握し当該地域が抱える具体的な問題を見つけ出す能力
- ③企業マネジメントと公共マネジメントで必要とされる基礎的知識及びその獲得能力
- ④個別分野及び個別地域における様々な課題に身につけた知識を投影する際に必要となる応用的能力
- ⑤地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を自ら企画・実行・発表するための実践的な課題解決能力(総合力)



カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)

本研究科では、上記の5つの能力に対応して、「分析基礎科目」、「地域基礎科目」、「基礎科目」、「応用科目」、「プロジェクト科目」から構成される教育課程を編成・実施します。修了要件はこれらの科目40単位以上の修得およびプロジェクト研究の審査に合格することです。なお、入学時から修了時まで、学生一人ひとりの研究・教育上の相談相手となる教員を複数割り当て、支援を行うことで、学生の多様な問題意識や目的に対応した履修計画を適切にカスタマイズできる体制を構築しています。



取得できる学位

経営修士(専門職) MBA (Master of Business Administration)



A 多彩な専任教員・講師

専任教員は、経営領域と、地域科学分野の優れた研究業績を有する研究者教員と、中央省庁・自治体や企業での豊富な経験を有する実務家教員からなります。非常勤講師には、県内外から産官学各界を代表する方々に就任しています。行政関係では、四国財務局長などの省庁の局長、香川県知事などの自治体トップ、経済関係では地域企業の経営者、全国企業の支店長など多彩な講師を迎えて、さらに地域とタイアップした講義などカリキュラムの充実に努めています。



B 理論と実務の双向方向教育

多彩な教員による実務的な科目群、理論的な科目群、そして集大成を図るプロジェクト研究などのカリキュラムについて、理論と実務の双方から教育を取り組みます。またビジネススクールの特性を活かし、ケース教材開発を積極的に推進し、それを活用した教育を行います。



C きめ細やかな少人数教育

専任教員1人あたりの学生数は学年あたり約3人です。学生1人ひとりの問題意識に応じたきめ細やかな指導が可能です。また、専任教員によるアカデミック・アドバイザー制度を設け、学生1人ひとりの学習上の相談に応えます。



D 社会人に便利な教育環境

討論が出来るスペースやPCを備えた24時間利用可能な本研究科専用ラウンジとPCルームを整備するほか、一部科目では、遠隔で講義が受講できます。また欠席および復習用に講義収録を行う科目もあり、忙しい社会人が学びやすい環境です。



E 人的ネットワークづくり

地域において、いま特に求められているのは、企業や行政、NPOなどの連携です。本研究科では、多彩な教員、志を同じくする学生同士の人的ネットワークの形成も推進します。



地域リーダーを育成する経営・地域公共の融合的カリキュラム

地域活性化に貢献するリーダーを養成するため、本研究科は一般的なMBAに地域の要素を加え、経営系と地域公共系を融合したカリキュラムを構築しています。学生諸氏は、分析基礎科目、地域基礎科目、基礎科目、応用科目などのカテゴリーの中から、各々の問題意識や志向性に沿って科目を選択し、地域の問題を的確に把握し解決する能力や、組織をマネジメントする能力などを身につけます。



■プロジェクト演習・研究が各4単位、他の科目は2単位、（特）は年度ごとに設置する特別講義。

■修了要件…基礎科目10単位以上、地域基礎科目4単位以上、分析基礎科目2単位以上、プロジェクト科目8単位。合計40単位以上。

科目群	授業科目	単位	開講	担当教員名
分析基礎科目	統計分析	2	前期	高塚 創
	ゲーム理論	2	後期	宍戸 栄徳(非常勤)
	経済分析	2	前期	長町 康平
地域基礎科目	四国経済事情(地域活性化と地域政策)	2	前期	高塚 創・非常勤講師
	四国経済事情(地域活性化と企業経営)	2	後期	板谷 和彦・非常勤講師
	四国経済事情(地域活性化と地域資源)	2	集中	佐藤 勝典・非常勤講師
基礎科目	マネジメント戦略(総論)	2	集中	板倉 宏昭(非常勤)
	アカウンティング	2	前期	中村 正伸
	組織行動論	2	前期	吉澤 康代
	経営管理論	2	前期	板谷 和彥
	マーケティング戦略	2	前期	閔 庚炫
	ファイナンス・マネジメント	2	前期	三好 祐輔
	地域公共政策	2	前期	村山 卓(非常勤)
	自治体財政政策	2	後期	未定
	地域マネジメント論	2	後期	原 真志
	マネジメント戦略(各論)	2	後期	板倉 宏昭(非常勤)
	マーケティング・リサーチ	2	集中	閔 庚炫
応用科目	マーケティング・マネジメント	2	前期	大北 健一
	イノベーション・マネジメント	2	前期	柴田 友厚(非常勤)
	ビジネス・アカウンティング(財務会計)	2	後期	國村 年(非常勤)
	マネジメント・アカウンティング(管理会計)	2	後期	中村 正伸
	環境経営	2	集中	木全 晃(非常勤)
	人的資源管理論	2	後期	吉澤 康代
	国際経営	2	前期	反田 和成
	地域経済分析	2	後期	長町 康平
	費用便益分析	2	集中	那須 清吾(非常勤)
	意思決定分析	2	前期	大北 健一
	経営リスク・マネジメント	2	前期	志田 慎太郎(非常勤)
特別講義	地域開発と資本市場の役割	2	前期	野村證券グループ提供講義
	事業構想論	2	前期	反田 和成
	企業倫理	2	前期	岡本 人志(非常勤)
	社会起業家論	2	前期	佐藤 勝典
	クリエイティビティと地域活性化	2	前期	原 真志
	新産業政策	2	集中	田中 正躬(非常勤) 他
	地域マネジメントとファイナンス	2	集中	三好 祐輔
	地域産業連関分析	2	集中	井原 健雄(非常勤)
	実践型地域活性化演習	2	集中	佐藤 勝典
	実践型クリエイティブワーク演習	2	集中	原 真志
	地域活性化と観光創造	2	後期	四国ツーリズム創造機構・四国経済連合会提供講義
プロジェクト科目	地域の中小企業と経済活性化	2	後期	かがわ産業支援財団提供講義
	地域観光マネジメント	2	後期	佐藤 勝典
	定性的研究方法論	2	後期	板谷 和彥
	プロジェクト演習	4	前期・集中	全専任教員
プロジェクト研究	プロジェクト研究	4	後期	全専任教員

専任教員



教 授 研究科長
Shinji Hara
原 真 志

略歴

[学歴] 東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学(1995)・修士(理学)
 [職歴] 香川大学経済学部専任講師(1995-1996)、同助教授(1996-2004)、
 香川大学大学院地域マネジメント研究科助教授(2004-2007)、同准教授(2007-2010)、
 同教授(2011-)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員研究員(1998-2000, 2011-2012)、
 香川大学大学院地域マネジメント研究科研究科長(2015-)。
 [公職等] 新生「四国テクノプリッジ計画」検討委員会委員(四国経済産業局)、「映像コンテンツ・
 ビジネスマネジメント研究会」委員(経済産業省)、高松市総合計画審議会委員、
 三豊市総合計画審議会委員長など

担当授業科目

地域マネジメント論
クリエイティビティと
地域活性化
実践型クリエイティブ
ワーク演習

[地域マネジメント論] 地域のマネジメントには何が求められるか?企業にとって地域の意味は何か?地域の様々な課題を解決するポイントは何か?ネットワーク・知識創造・リーダーシップ・クリエイティビティ・信頼などのテーマを、ケースと理論の両面から考えます。地域活性化に取組む際に共通して必要な考え方を身につけ、本物の実践的思考力を養う場を提供します。[クリエイティビティと地域活性化] 地域の隠れた魅力に光をあて、地域の要素を効果的に組み込んだ深いストーリーの映画脚本作成と、映画と地域資源のコラボによるビジネスプランの作成により、個性あるクリエイティビティを発揮しての地域活性化を目指します。[実践型クリエイティブワーク演習] 地域映画脚本、地域コラボビジネスプランを実行に向け練り上げる実践的演習を行います。

研究テーマ

研究実績・実務業績

産業クラスターとグローバルプロジェクトに関する研究を行っています。ハリウッド映画産業および日本の映画・アニメといったコンテンツ産業を対象とする現場に深く入り込んだ実証研究の実績があります。最近注目が高まっているVR・AR・360度映像を用いた地域活性化とVRストーリーテリング、インバウンド観光に対応する地域の仕組みづくりについて検討を進めています。映画ロケ誘致だけでなく、地域が開発段階から主体的にプロジェクトに関わり、映画と地域の様々な産業や人々が連携する地域密着の映画づくり、地域と映画のコラボレーションビジネスなど、クリエイティビティベースの地域活性化を探求しています。

専任教員



教 授 Kazuhiko Itaya
板 谷 和 彦

略歴

[学歴] 東京大学理学系大学院相関理学専攻修士課程修了(1986)・理学修士、(2002)博士(工学)
 東京大学総合文化研究科広域科学専攻博士後期課程修了(2010)・博士(学術)
 [職歴] (株)東芝 総合研究所(現研究開発センター)研究主務、経営変革エキスパートなどを経て研究主幹(1986-2012)、カリフォルニア大学サンタバーバラ校客員研究員(1993-1995)、東京工業大学大学院総合理工学研究科非常勤講師(2000-2002)、東芝ビジネス&ライフサービス(株)テクニカルサービス部部長(2012-2017)、東京農工大学 工学府産業技術専攻教授(2013-2017)
 [公職等] 研究・技術計画学会(現研究・イノベーション学会)庶務理事(2010-2012)、評議員(2012-)、
 PICMET (Portland International Center for Management and Engineering of Technology) プログラム委員(2007-)

担当授業科目

経営管理論
定性的研究方法論

[経営管理論] 企業や自治体などの経営組織においては、必ず基盤となる組織のフレームと管理のシステムが存在します。本講義ではそれらがどのような理論・学説に基づいて成立してきたかということ、どのような役割と機能を有するか理解を深めています。さらに、事例も示しながら今日における経営と管理のあり方についても討議・考察をはかっていきます。
 [定性的研究方法論] 本講義では、社会的フィールドや様々な行動の背後に隠れた「意味」に着目し、これを再構成・理論化するのに有効な定性的研究方法論について学びます。定性的研究の定義と目的、量的研究との比較、および方法論としてのプロセスを解説した上で、プロジェクトや実践で活用できるように演習も進めています。

研究テーマ

研究実績・実務業績

組織におけるナレッジワーカー(知識労働者)の様々な創造活動の理論的解明や、創造性を促進するマネジメントシステムを提案する研究を行っています。技術系企業において工学分野の研究や、技術をサービスセクターの新事業へと結合させる活動など、実務家としても経験を重ねてきました。「地域新時代」をむかえ、企業や地域の様々な経営組織における現場でナレッジワーカーの創造性発揮が強く求められていると考えます。大学と地域企業の双方向にコミュニケーションをはかりながら研究を推進していきます。
 著書・論文(1)『技術経営の実践的研究』(共著)、東京大学出版会、2013.
 (2)『技術系企業における発見の支援を目的としたマネジメントに関する定性的研究』(共著)、経営行動科学24(2), 109-123, 2011.

担当授業科目

統計分析
都市開発論

[統計分析] 企業経営や都市・地域づくりに関わる実務者には、社会経済データや意識調査データを客観的に分析し、それぞれの業務に役立てることが求められます。本講義では、そういった際に用いられる基礎的な統計技法について学びます。また統計分析ソフトSPSSとサンプルデータを活用し、実際に分析する作業をしてもらいます。

[都市開発論] 地方の問題を地方で考えなければならない時代になってきています。本講義では、地方都市が抱える様々な問題を取り上げ、それをどのように理解し、解決するためには何が必要かを考えています。具体的には、交通政策、環境政策、開発規制、産業政策などについて、その意義や効果を経済学的な観点から理解・把握することを学習し、実際への適用に関して議論していきます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

空間経済学の手法を用いて、企業や家計の立地メカニズム、産業立地政策の意義や効果、環境政策や貿易政策の効果などについて、数理的な研究を中心に行っています。また、地元の都市・地域問題にも関心があり、香川県で廃止が決定された線引き制度の効果や、都心部コンパクト化のサービス業活性効果、都心居住推進の意義と可能性についても研究してきました。
 著書・論文(1)『空間経済学』(共著)、東洋経済新報社、2016.
 (2) Nontariff Protection without an Outside Good (共著)、International Review of Economics and Finance, 41, 65-78, 2016.
 (3) Does Globalization Foster Economic Growth? (共著)、The Japanese Economic Review, 66(4), 492-519, 2015.

担当授業科目

マーケティング・マネジメント
意思決定分析

マーケティング・マネジメントの講義では、まず「マーケティング発想の経営」について理解を共有することからはじめます。続いて「企業戦略とマーケティング戦略」に関する考え方や枠組みについて解説を加えるとともに、「マーケティング環境の理解」を深めています。その上でマーケティング意思決定の主要な問題について検討を試みます。他方で、意思決定分析の講義では、「経営分野の主要な分析ツール」と「市場構造の分析枠組み」について解説することからはじめます。そして「競争と協調のコーベティション戦略」について議論を行うとともに、そこでの議論に必要な相互依存関係を描写し、意思決定の相互作用を解き明かす「ゲーム理論」について十分に理解できるよう基礎から解説することにも努めたいと考えています。

研究テーマ

研究実績・実務業績

Author, Editorial Board Member, Reviewerの各観点で国際標準の研究活動を継続しています。具体的には、Business EconomicsやStrategic Management, Marketing Strategyなどの研究分野で海外の専門誌に9本の論文を発表するとともに、海外の専門誌International Journal of Entrepreneurship and Small Businessの編集委員(2015-)に加えて、General Managementの北アメリカ(AOM 2016-2017; SMA 2016; ASAC 2016)やヨーロッパ(BAM 2016; EURAM 2015, 2017)、オセアニア(ANZAM 2016)の学会、International Businessの学会(AIB 2017)の年次大会に投稿された18本の論文のレビューを務めています(2017年1月末現在)。PublicationsやResearch Interestsなどの詳細については、香川大学研究者総覧と香川大学大学院地域マネジメント研究科英語版教員紹介のホームページをご覧ください。

専任教員



教 授

Kazunari Sotta

反田 和成

略歴

[学歴]慶應義塾大学経済学部経済学科卒業(1979)
青山学院大学大学院会計プロフェッショナル研究科前期課程修了(2014)・会計修士(専門職)
[職歴]総合商社丸紅株にて1979年4月より鉄鋼貿易、中近東クウェート駐在、情報産業、事業会社の立ち上げ、幅広い分野を経験した後、2004年4月から約12年間丸紅グループ全体の内部監査に従事、2015年12月丸紅株退社後、2016年1月より香川大学大学院地域マネジメント研究科教授。

担当授業科目

国際経営
事業構想論

[国際経営]国際ビジネスの基礎知識を学び、ダイナミックにグローバル展開する企業の活動を、戦略・環境・リスクマネジメント・組織・人的資源といった視点で多面的に理解すると共に、具体的には、日本企業による海外展開の背景、事業内容等の体系的な整理・理解を通じて、院生諸君に実戦的なグローバル人材になるための素養を習得する。
[事業構想論]事業構想全般を「構想×事業計画×実行力」と捉え、新規事業のビジネスプラン作成のポイントを習得する。ゲスト講師の講和や経済記事・レジュメ等を通じて事業構想の具体的な事例を分析し、それを紐解くことにより事業の成否を分ける要因やリスクマネジメントの本質を理解し、事業構想の有効性と実行性を検証していく。

研究テーマ

研究実績・実務業績

地域経済を活性化させるためには、地場の企業がそのユニークさやオリジナリティを維持しながら国内外の企業と活発に交流・取引を行い市場に積極的に発信していくことが重要である。地場の企業が海外進出や海外取引を行う際の経営戦略やリスクマネジメント、新規事業の立ち上げと実践について研究・検証する。具体的には、香川県を中心として四国の企業を訪問し、国際経営の手法や6次産業化に関わる実証研究を主体にグローバルスタンダードと地場のルールを融合させ、より地域に根ざした効率的・効果的な経営とは何かについて研究する。

専任教員



准 教 授

Katsunori Sato

佐藤 勝典

略歴

[学歴]慶應義塾大学商学部卒業(2002)、慶應義塾大学大学院商学研究科博士前期課程修了(2005)、東北大学大学院経済学研究科博士課程後期3年の課程修了(2012)・博士(経営学)
[職歴]東北大学大学院経済学研究科博士研究員(2012-2015)、香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2015-)

担当授業科目

社会起業家論
地域観光マネジメント

研究テーマ

研究実績・実務業績

社会起業家論 - 現代社会では、貧困、ニートや障害者など社会的弱者に関する様々な社会的課題が起きている。これらの課題をビジネスの手法を用いて収益を上げながら事業性を兼ね備えて解決しようとする社会起業家に注目して理論と実態の両面から講義を行う。
地域観光マネジメント - 中山間地域や離島をはじめ、過疎地域の地域再生が重要な課題となっている。地域資源を地域外の人へアピールすることで、地域を訪れてもらう地域観光に着目して、担当者がこれまでに行ってきた事例研究の紹介を通じて講義を行う。

教 授

Kyunghyun Min

閔 庚炫

[学歴]早稲田大学ビジネススクール修了、経営管理学修士(MBA)、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際経営専攻博士後期課程修了、博士(学術)
[職歴]早稲田大学マーケティング研究所研究員、早稲田大学商学学術院総合研究所助手、早稲田大学商学学術院総合研究所招聘研究員、香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2012-2016)、同教授(2016+)

担当授業科目

マーケティング戦略
マーケティング・リサーチ

市場における競争のルールが大きく変わることで、企業が行う諸戦略の変化と共に、マーケティング領域のパラダイムも転換期を迎える中、今まさに製造業から各種サービス業に至るまで、従来とは異なる戦略的代替案の再検討が求められています。このような時代の変化を踏まえた上で講義では、マーケティング戦略とリサーチの基本的なフレームワークについて、環境変数と消費者心理を戦略立案過程における補完要因の最小単位として捉えつつ解説を行う一方で、様々な考察対象の中から具体的な戦略的課題を見出せるように、マーケティングリサーチにおける調査デザインや集計・分析方法など、リサーチプランニングの全体像に関する理解を深めることで、分析結果を個別戦略に投影していくための具体的な方法論を習得することを学習目標にしています。

研究テーマ

研究実績・実務業績

これまで市場調査・実験調査に基づき店内行動やコミュニケーション効果、新製品開発など、マーケティング戦略に関する研究を行う一方で、購買合理性と意識構造という二つのフレームのもと、感覚的・感性的購買誘因や環境的要因により発現される消費者の非合理的・潜在的購買情報処理過程を究明するための研究に取り組んできました。現在は購買行動における選択手続きと情報処理アプローチに依拠し、認知過程から遮蔽された入力情報の誘因効果と既知情報の遅延効果との関係を諸論議における中心的な模索装置としつつ、非合理的購買行動の発現過程に関する既存のフレームに新たな解釈を加えるための研究を進めています。



准 教 授

Kohei Nagamachi

長町 康平

略歴

[学歴]東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学(2012)・博士(経済学)
[職歴]日本学術振興会特別研究員DC2(2010-2011)
横浜国立大学経済学部非常勤講師(2011-2013)
東京大学大学院経済学研究科助教(2012-2013)
京都大学経済研究所非常勤講師(2014)
香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2014+)
[公職]経済産業研究所・地域経済プログラム・プロジェクトメンバー(2013-2017)

担当授業科目

経済分析
地域経済分析

研究テーマ

研究実績・実務業績

[経済分析] 家計・企業等の経済主体の意思決定問題とそこから派生する市場・非市場における諸現象を分析対象とするミクロ経済学を体系的に学びます。経済学の基礎であるミクロ経済学を学ぶことで経済学の応用分野へ進む基礎力を提供すると同時に、経済情勢や経済政策の意義・必要性を大局的な視点から理解する能力を身につけます。
[地域経済分析] 地域(都市を含む)の経済活動を分析するための経済学を学びます。具体的には、なぜ都市が存在するのか、都市の人口規模はどのように決まるのか、といった基本的内容やその他地域の経済活動を理解する際に役立つ視点を学びます。また、都市が世界の貿易拠点である点を考慮し、国際貿易についても経済学的視点から学びます。

経済活動の空間分布の決定メカニズムとそれが経済成長・格差、社会厚生にもたらす影響を空間経済学、都市経済学、マクロ経済学等の分析手法を用いて主に理論的・数量的に分析しています。これまで、知識労働者の地理的集中、情報通信技術の発達によるフラグメントーションと都市の機能的特化、多様な産業・職業・職務が存在する中での都市の階層性、人工知能が都市システムに与える影響を研究してきました。



准教授

Masanobu Nakamura

中村 正伸

略歴

【学歴】明治大学大学院経営学研究科博士後期課程修了(2014)・博士(経営学)。
 一橋大学大学院法学研究科修士課程修了(1999)・法学修士
 一橋大学法学部卒(1995)
 【職歴】ブライスウォーター・ハウス・ケーパース・コンサルティング(現IBM、1999-2004)、新日本監査法人(現新日本有限責任監査法人、2005)、アルテミス・ビジネス・コンサルティング(2006-2011)、アピームコンサルティング(2011-2014)。

担当授業科目

アカウンティング
マネジメント・アカウンティング

アカウンティングでは、会計に期待されている役割を考察します。一昨年発覚した内資大手企業や監査法人を巡る会計不祥事を頭の片隅に置く必要はあるものの、そもそも会計の果たす役割について、過去・現在・未来の時間軸で検討したいと思います。マネジメント・アカウンティングでは、その目的である組織のメンバーの「動機付け」を念頭に議論を行います。組織・個々人の責任を明確にして、前向きな気持ちを持たせてやられてみる、そしてその業績を評価する。その役割を担うのがマネジメント・アカウンティングです。組織は生き残りをかけて変化へ対応する必要があります。のためにマネジメント・アカウンティングが果たす役割を皆さんと考えたいと思います。

研究テーマ

研究実績・実務業績

プロジェクト組織におけるマネジメント・アカウンティング、即ち管理会計の役割を研究しています。プロジェクト組織は、特定目的のために編成される臨時組織であり、目的を達成すれば解散します。従来管理会計は、部門と呼ばれる比較的安定的な組織を前提に研究がなされてきました。しかし、製品やサービスのライフサイクルが加速度的に短期化している現代においては、変化に対応して、新しい製品やサービスを継続的に市場に送り出す必要があります。のために、常に組織の編成・解散を繰り返し臨機応変に対応することになります。そのような活動を有限な資源により遂行していくための会計の役割を研究しています。



准教授

Yasuyo Yoshizawa

吉澤 康代

略歴

【学歴】慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了
 【学位】2009年 政策・メディア 博士(慶應義塾大学)
 【職歴】株式会社ヒューマンネッサンス研究所(1996-2005)、株式会社コープレイトユニバーシティプラットフォーム(2006-2010)、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師(常勤)(2010-2013)、香川大学大学院地域マネジメント研究科専任講師(2013-2017)、香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2017-)

担当授業科目

組織行動論
人的資源管理論

グローバル、ダイバーシティが進展する中、多様な「人」といかに向かい、組織力を高めていくのか。次世代のマネジメントに求められる視点です。そのような「人」に焦点を当てた科目が「組織行動論」「人的資源管理論」です。

【組織行動論】(1) 組織において個人が陥りやすい認知、とりやすい行動やスタイル、(2) 集団や組織が陥りやすい典型的な問題、(3) 組織が直面する新しい問題、(4) 個人と組織の成長と開発について学び、「組織活性化」のあり方について議論していきます。

【人的資源管理論】(1) 人材マネジメントの基本、(2) 人材マネジメントの機能を理解し、(3) 「戦略的HRM (Human Resource Management)」を考える視座を得ます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

「個人と企業組織の関係性(組織コミットメント、組織風土、モチベーションなど)」「働き方」「キャリア」を研究領域としています。これまで「テレワーク」「人材の流動化」「ワーク・ライフ・バランス」「ダイバーシティ」などを扱ってきました。最近は「キャリア研修の効果」「キャリアにおける将来展望と将来不安」「ライフキャリアにおけるワークモチベーションのダイナミズム」について研究を進めています。



准教授

Yusuke Miyoshi

三好 祐輔

略歴

【学歴】京都大学大学院経済学研究科 博士後期課程修了(2003)・博士(経済学)
 【職歴】京都大学経済学研究科 21世紀COE研究員(2003-2004)、京都大学経済研究所非常勤講師(2004-2005)、佐賀大学経済学部(2004-2007)、佐賀大学大学院経済学研究科准教授(2007-2015)、佐賀大学大学院工学系研究科博士課程後期准教授(2013-2015)、香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2015-)、
 [公職] 国土交通省四国地方整備局総合評価委員(2016-)

担当授業科目

ファイナンス・マネジメント
地域マネジメントとファイナンス

企業再編の増加や株主重視経営の定着などに伴い、財務知識の重要性が高まっています。ファイナンス・マネジメントとは、資金の投資先の決定・資金調達先の決定・配当政策の決定など、企業経営のうち資金に関する分野を対象とした学問です。企業にはどのような資金調達の手段があるのか、調達した資金を複数ある投資案件のどれに投下するのか、利益をいくら還元すればいいのかという意思決定の問題を主に扱います。また、財務数値を用いた簡単な実証分析の方法についても学習し、実践的な思考力を身に付けられるように進めます。授業終了後には、受講者はケーススタディを中心とし、各自が興味を持つ産業あるいは企業について有価証券報告書等を利用して財務分析を行ったものを提出し、発表してもらう予定です。

研究テーマ

研究実績・実務業績

社会科学の諸現象をインセンティブメカニズム及び法律との関連から、経済主体の意思決定の問題を解明し、客観的な議論を開拓できるような研究者でありたいと日々心がけてきました。研究手法は、empirical analysisです。既存のモデルをただ当てはめて現実の社会現象を解釈することを面白いとは考えておらず、興味があるのは現実社会に即して構築した理論モデルに基づいた実証研究から、政策的インプリケーションを導くことです。これまでの大学の講義で担当しているのがファイナンス系科目なので、その方面的研究が自動的に多くなっていますが、それ以外の分野であっても研究の対象に含まれます。

著書(単著)「法と紛争解決の実証分析-法と経済学のアプローチ-」大阪大学出版会 2013年

客員教授一覧

志田 慎太郎 前東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 顧問

中山 恒子 参議院議員

松田 清宏 四国旅客鉄道株式会社 相談役

四国ツーリズム創造機構 会長

三好 勝則 アーツカウンシル東京 機構長

村山 卓 総務省



担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と地域政策)

岩崎 憲郎	高知県大豊町長	長浜 裕二	四国経済産業局長
菱川 功	日本銀行高松支店長	坂井 康宏	中国四国農政局長
浜田 恵造	香川県知事	井原 辰雄	中国四国農政局長
大西 秀人	高松市長	名波 義昭	四国地方整備局長
瀬部 充一	四国運輸局長	綾 宏	坂出市長
中山 恭子	参議院議員	佐藤 裁也	四国総合通信局長
大山 誠一郎	四国森林管理局長	高塚 創	専任教員
余島 義豊	四国財務局長		

担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と地域資源)

古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合 理事長	多田 善昭	多田善昭建築設計事務所 主宰
大森 研一	映画監督・脚本家・映像制作会社 代表	三好 勝則	アーツカウンシル東京 機構長
笠原 良二	公益財団法人福武財団 アートマネジメント・助成担当 部長	大南 信也	特定非営利活動法人グリーンバレー 理事長
畦地 履正	株式会社四十ドrama 代表取締役	山口 仁八郎	株式会社丸ノ内ホテル 総料理長
益田 祐美子	平成プロジェクト 映画プロデューサー	佐藤 勝典	専任教員

担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と企業経営)

板谷 和彦	専任教員	黒江 賢司	三菱商事株式会社 四国支店長
植田 貴世子	株式会社クラッサー 代表取締役社長	真鍋 康正	高松琴平電気鉄道株式会社 代表取締役社長
高濱 和則	大倉工業株式会社 代表取締役社長	渡邊 智樹	株式会社百十四銀行 代表取締役頭取
高木 孝征	香川県信用保証協会 会長		
中條 博之	香川証券株式会社 代表取締役社長		
辻 幸則	株式会社日通自動車学校 代表取締役社長		
泉 雅文	四国旅客鉄道株式会社 代表取締役社長		
敷山 靖洋	日プラ株式会社 専務取締役		
宮武 利弘	香川県農業協同組合中央会・各連合会会長		
原田 雅仁	四国電力株式会社 常務取締役		



■野村證券グループ 提供講義

担当授業科目	地域開発と資本市場の役割
橋本 尚人	野村證券株式会社 産業戦略開発部 主任研究員
若生 寿一	野村證券株式会社 投資情報部 エクイティ・マーケット・ストラテジスト
小林 秀智	野村證券株式会社 アセットファイナンス部 アドバイザリー課 課長
小澤 育夫	野村證券株式会社 金融公共公益法人部 公共公益法人課 課長
西澤 隆	野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社 取締役社長
佐藤 光泰	野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社 調査部 主任研究員
池上 浩一	野村ホールディングス株式会社 コーポレート・シティズンシップ推進室 シニア・コミュニケーションズ・オフィサー、名古屋大学 客員教授



■四国ツーリズム創造機構・四国経済連合会 提供講義

担当授業科目	地域活性化と観光創造
松田 清宏	四国ツーリズム創造機構 会長
大熊 伸二	四国旅客鉄道株式会社 総合企画本部 地域連携室 室長
矢田 博嗣	一般社団法人日本旅行業協会 中四国支部 香川地区委員会 委員長
阿部 浩之	全日本空輸株式会社 高松支店長
福永 航一	日本航空株式会社 高松支店長
北村 宏之	アサヒビール株式会社 四国統括本部 営業企画部長
十河 陽之助	四国靈場86番札所 志度寺 副住職
林 勇一	株式会社JTB中国四国 交流創造事業部 副事業部長
近兼 弘幸	琴平グランドホテル 代表取締役社長
渡部 淳	高知城歴史博物館館長
木川 佐智子	栗林公園所長
瀬部 充一	四国運輸局 局長



※非常勤講師は変更になる場合があります。

※非常勤講師は変更になる場合があります。

■公益財団法人かがわ産業支援財団 提供講義

担当授業科目 地域の中小企業と経済活性化

反田 和成	専任教員
大津 佳裕	公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長
近藤 浩二	株式会社レアスワイト 代表取締役社長
槙田 裕	株式会社マキタ 代表取締役社長
渋谷 信人	Ristorante FURYU オーナーシェフ
筒井 朋章	有限会社筒井製菓 代表取締役
西森 丈士	有限会社西森園 代表取締役
矢野 俊郎	香川県うちわ協同組合連合会 副会長
漆原 憲和	高松市牟礼庵治商工会 会長
大西 昭	葵機工株式会社 代表取締役専務
瀬尾 尊	株式会社広立 取締役副社長
村上 康裕	株式会社ADSムラカミ 代表取締役
吉原 良一	吉原食糧株式会社 代表取締役社長
徳永 真悟	くりや株式会社 代表取締役
大山 育江	有限会社大山牧場 代表取締役
坂東 未来	有限会社藍色工房 代表取締役

担当授業科目 地域マネジメントとファイナンス

三好 祐輔	専任教員
甲斐 良隆	関西学院大学経営戦略研究科 教授
前田 祐治	関西学院大学経営戦略研究科 教授
山村 能郎	明治大学大学院グローバル・ビジネス研究科 教授
菅原 俊子	株式会社ハート・オーガナイゼーション 代表取締役
宍戸 栄徳	香川大学名誉教授

担当授業科目 新産業政策

田中 正躬	一般財団法人日本規格協会 顧問
田辺 孝二	東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科 教授
中島 一郎	早稲田大学研究戦略センター 教授
中野 幸紀	情報通信技術・メソ経済研究所(IRMETIC) 代表

担当授業科目 イノベーション・マネジメント

柴田 友厚	東北大学大学院経済学研究科 教授
-------	------------------

担当授業科目 経営リスク・マネジメント

志田 慎太郎	前東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 顧問
--------	---------------------------

担当授業科目 費用便益分析

那須 清吾	高知工科大学マネジメント学部 教授
-------	-------------------

担当授業科目 地域産業連関分析

井原 健雄	公益財団法人中部圏社会経済研究所 理事・フェロー
-------	--------------------------

担当授業科目 ゲーム理論

宍戸 栄徳	香川大学名誉教授
-------	----------

※非常勤講師は変更になる場合があります。

※非常勤講師は変更になる場合があります。

担当授業科目 企業倫理

岡本 人志 大阪市立大学名誉教授

担当授業科目 環境経営

木全 晃 新潟大学経済学部 教授

担当授業科目 ビジネス・アカウンティング(財務会計)

國村 年 國村公認会計士事務所 所長

担当授業科目 地域公共政策

村山 阜 総務省

担当授業科目 マネジメント戦略(総論)

板倉 宏昭 首都大学東京産業技術大学院大学教授

担当授業科目 マネジメント戦略(各論)

板倉 宏昭 首都大学東京産業技術大学院大学教授

学びの志に応える、充実した学習設備



講義室

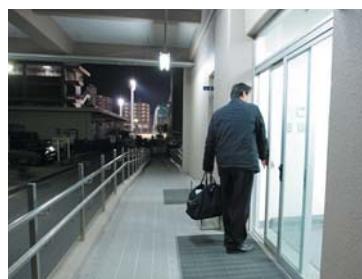
特別講義室、第二講義室の2つを専用的に使用し、80名程度収容可能な第一講義室を他部局と共有しています。特別講義室と第二講義室は、教員と学生との双方向の授業形式に合う設計になっています。3つの講義室とも講義収録システムを含む最新の情報機器を整備しています。プロジェクト演習・研究には演習室を使用します。



24時間学べる環境

地域マネジメント研究科専用のラウンジ(自習室)とPCルームは24時間利用可能となっています。またPCには統計解析ソフト(SPSS)等研究に必要な設備を兼ね備えており、学習意欲に応える環境が整っています。大学図書館は22時まで利用可能です。

社会人に配慮した学習環境と内容



仕事と両立しやすい夜間や土曜日に開講

学生の多くは、地元の企業や自治体で仕事をしながら熱心に学ぶ社会人学生です。このため平日(月～金曜日)は夜間に開講するほか、土曜日も授業科目を設定しています。夏期休暇中にも集中講義を受けることができます。学部卒業生もアルバイトや就職活動をしながらの勉学が可能です。



絆を深める多彩なイベント、交流の機会も豊富

いま地域では、民間企業と行政、NPOなど、市民組織の連携が求められていますが、異業種や異分野の人々と顔見知りになる機会は意外に少ないので現状です。本研究科では多様な業種の社会人が学びの場を通して志を同じくし、学生同士の貴重な人的ネットワークが形成されます。こうした絆は、通常の講義でのグループ単位によるケースディスカッションをはじめ、夏期合宿など、多彩な交流の機会によって育まれます。

※非常勤講師は変更になる場合があります。



Interview 吉田 貴之

地域マネジメント研究科12期生
香川大学法学部法学科卒業、大倉工業株式会社

社会人としての成長を実感できた二年間

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 一言でいうと、「人とのつながり（人脈）」です。ビジネススクールでは、公務員、医師、留学生、民間企業等、様々なバックグラウンドを持つ人たちと一緒に学ぶことができます。また、在学生だけではなく、修了生やその関係者と交流する機会も多くありますので、この2年間で私自身の人脈や視野が広がったと実感しています。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントを教えてください。

A. 2年生のプロジェクト研究が印象に残っています。自分自身で選んだ1つのテーマについて1年間調査・考察を行い、一つの提案（結論）として論文にまとめます。「仮説を作り、仮説を検証し、検証結果を他の人に説明する」という一連の研究プロセスは、今後、私自身の業務にも応用できる非常に実践的なものでした。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 私自身入学当初は仕事との両立ができるかの不安を感じおりましたが、入学後は、現在の業務をいかに効率的に行うかを自然と考える様になりました。その結果、仕事の生産性が向上したと感じています。ビジネススクールで学ぶ2年間は、自らを成長させるきっかけになりますので、是非入学し、充実した2年間を送って頂きたいと思います。



Interview 梅木 佳子

地域マネジメント研究科6期生
日本大学芸術学部放送学科卒業、映画「W&M」「Lemon&Letter」監督

「映画」製作への序章から拡がりへ 地マネ人脈に感謝

私は今年2017年2月のさぬき映画祭で、さぬき映画祭2017優秀企画上映作品「Lemon&Letter」を無事初上映することができました。今作は2作目の作品で、私は2作品とも地元香川の瀬戸内の島「男木島」をテーマに企画・脚本・監督をしました。6期生同期33人のうち、女性が3名。そのうちの1人が中国からの留学生で、彼女が常々「瀬戸内海は素晴らしい」と彼女のプロジェクト研究も「瀬戸内のリゾート観光」でした。また、もう一人の女性のテーマが「映画のロケ地を誘致して地域活性」でした。彼女の説いで、翌年、香川県主催の映像塾やシナリオ講座を受講し、映画製作のきっかけに出会いました。

二人に見えてもらつて喜んでもらえるような映画…なんとなく私の根底にあるのは、「地元資源を生かした地域活性の映画を地元で作り、世界に拡げていけたら…」と長い目で見て楽しんでいただける映画を作りたいと思っています。1作目のさぬき映画祭2015優秀企画上映作品「W&M」に続き、今回の「Lemon&Letter」も、さぬき映画祭2017優秀企画上映作品に選ばれ、たくさんの方に観に来て頂き、喜んで頂きました。地マネの先生方、修了生の方、在校生の方々の様々なバックアップや応援を頂き、地マネ人脈の素晴らしさに感謝しています。今後も地域活性のための映画を製作・上映し、香川や四国の発展の一助となりたいと思っています。地マネットワークに感謝するとともに、地元のスポンサー や サポーター、県や高松市など自治体の協力、たくさんの方々の応援に感謝しています。映画製作を通して、たくさんの人たちとの出会い、そしてつながり、映画の上映を通して、県内外、国外の人たちが香川や瀬戸内の良さを知り、たくさん訪れてくれることを願っています。

<https://www.facebook.com/lemonandletter/>

地域マネジメント研究科12期生

日本大学文理学部社会学科卒業、香川県政策部政策課

石原 美保

Miho Ishihara

地マネで学ぶことにより 将来目指すべき方向性を定める

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. これまで自分が取り組んできたことについて、大学院での講義やレポート提出をとおして振り返ることで再評価することができました。また、地域公共系と経営系の両方の科目を体系的に学ぶ機会を得られたことで、将来自分が目指すべき方向性を定めることができました。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントを教えてください。

A. シンポジウムでは、同級生と力を合わせて企画・運営から当日の発表まで行い、その経験をプロジェクト研究にも活かすことができました。また、合宿では、訪問先の方との意見交換や屋外活動など貴重な体験ができ、先生方や仲間たちとの親交も深めることができました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 家事に仕事に勉強にと毎日ハードな生活でしたが、時間はなんとか自分で捻出しました。在学中は、好奇心旺盛にかつ貪欲に、様々なことを吸収することに徹すると、卒業後には知識やスキルの活用や表現、行動などが自然にできるようになっていると思います。



地域マネジメント研究科11期生
株式会社百十四銀行総合職

LIANG YANLI

Interview



地域マネジメント研究科11期生
西日本旅客鉄道株式会社

曳野 彰一

Shouichi Hikino

Interview



Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. ビジネススクール特有のパネルディスカッションやグループワークを多く体験しました。幅広い年齢層・様々な職業の方々と一緒に勉強し、垣根を越えて意見を交わす機会に恵まれ、社会人としての考え方・ビジネスマナー等を身につけられました。また、日本文化や日本人の習慣、考え方などを深く触れる機会に恵まれました。

Q. 就職に関して教えてください。

A. 瀬戸内海の美しい景色、美味しい料理、温かい人たち、住み心地のいい香川県で就職しようと決めました。内定先である百十四銀行の講義を聞き、地域へのサービスを提供しつつ、海外進出する地元の企業先をサポートする百十四銀行に興味を持ちました。また、社会人の方々から「企業にとって望まれる学生像、就職活動すべきこと」等を教わりました。



Voice

地域マネジメント研究科13期生
広島大学経済学部卒業、株式会社百十四銀行

大西 紘司
Koji Onishi

多種多彩な仲間と共に学ぶ貴重な経験

Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。

A. 私の勤務する地方銀行も、人口の減少やマイナス金利等で市況が大きく変化しており、地域への貢献がより一層期待されています。そこで、経営学の知見だけでなく地域活性化の様々な取り組みについても学びたいと、地域マネジメント研究科へ入学しました。

Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。

A. 授業では瀬戸内芸術祭の開催に合わせてその舞台となる島を幾つかグループで巡り、住民の方からお話をうかがい、レポートにまとめたものが印象に残っています。話を聞く中でボランティアスタッフの重要性を思い知り、実際に芸術祭のボランティアにみんなで参加したことでも良い思い出です。また、授業外では9月に開催したシンポジウムも忘れられません。学生同士の何回もの話し合いから少しずつイベントが形作られ、みんなの持つ知識や人脈を活かしながらどんどん内容が濃くなっていました。そして、無事に終わった時には何とも言えない充実感がありました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. この地域マネジメント研究科には、卒業生を含め地元の様々な企業・機関で働く方がたくさん集まっています。大学院に入学するまでは、単純に知識の習得をする所、というイメージを持っていましたが、実際入学してみると色々な経歴を持つ仲間と共にいることが、かえって自分のこれまでの人生を振り返る機会に自然となっているように思います。少し大きさかもしれません、自分の生き方を振り返ることで、これからの時代に何を本当にやりたいのか、それを自分の足元を掘り下げる機会にも、大学院での「学び」が役に立っているような気がします。このような貴重な「学び」を四国香川の地でできる、またないチャンスです。これを活かさない手はありません。ぜひ、思い切って挑戦してみましょう！

仕事と勉学の両立



Voice

地域マネジメント研究科13期生
広島大学経済学部卒業、損害保険ジャパン日本興亜株式会社

中條 美恵子
Mieko Chujo

仕事と勉学の両立

私は、損害保険ジャパン日本興亜の高松支店に勤務する営業社員です。大学院入学前は、平日は平均22時まで自分の思う存分に仕事をしていました。そんな私が見識を広めるために入学を決意したものの、「仕事のパフォーマンスが落ちないか」「職場の理解は得られるのか」と不安でした。1年たった今では不安は杞憂に終わり、周囲の皆さまの理解と応援に感謝しながら、仕事も学生生活も多くの実りを得ています。またタイムマネジメント力の向上は、私個人にとっても職場全体の生産性向上にも好影響を及ぼしていると感じます。大学院は授業を受講するだけではなく、今の時代に求められるライフ・ワーク・バランスを考えるきっかけになります。素敵な仲間と新しい自分に出会える場所です。

■ある1週間のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
8:30	勤務			勤務		家事 買い物
13:00		勤務				自由時間
18:00					学校	
20:00	残業					
22:00	自宅学習や 家事	学校	自宅学習や家事	自宅学習や家事	自宅学習や家事	自宅学習や 家事
24:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝

仕事と勉学の両立

地域マネジメント研究科13期生
神戸大学法学部卒業、香川県庁

荒井 理宏
Michihiro Arai

Voice

無数に転がっているチャンスを掴む

18時過ぎに慌てて職場を飛び出し、20分から始まる授業に滑り込む。野球の試合に例えると、残業は延長戦だが、通学は新たに1試合戦う気分である。それでも、ディスカッションの中から新しいアイディアが生まれる瞬間は、心底ワクワクする。同級生とチャレンジした「ビジネス&パブリックコンペ」はその化学反応の連続だった。また、「四国遍路」をテーマにした学生主催のシンポジウムからは、様々なつながりが生まれ、我が家と一緒に歩き遍路に挑戦するきっかけにもなった。

地元には、そういうチャンスが無数に転がっている。好奇心のアンテナを高く持ち、地域も家族もいい意味で巻き込みながら、思い切って飛び込んでみることが、両立のコツなのかもしれないを感じている。

■ある1週間のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
0:00 6:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝
8:30	勤務	勤務	勤務	勤務	PRイベント (勤務)	家族 サービス
12:00						
18:00		政策提言 プレゼン			グループ 研究	
20:00	学校	学校	学校	学校	自由時間	自宅学習
22:00	飲み会				自由時間	
24:00	グループミーティング 就寝	自宅学習	就寝	自宅学習	自宅学習	就寝



専門分野の知識を深め 経営の知見を広げる

Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。

A. 2015年に香川へUターンし、起業しました。仕事を進める上で自分の専門分野をさらに深める研究と地域に根差したマネジメントや経営の知見を広げる事を考えた時に、このビジネススクールで学ぶ事が一番良いと考えたのがきっかけです

Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。

A. 私は学部は法学部でしたので、経済学・経営学については初めての講義も多かったのですが、実際に体験している事を学術的な側面からとらえる事ができる科目はどれも印象的でした。また同期で協力して行う「シンポジウム」は大変な時間をかけての物でしたがやりがいも達成感も高い物でした。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 私は小さいながらも会社を2つ経営し共働きの妻と子ども3人の子育てをしながらの履修を続けられています。皆さんも時間的に厳しいと思う事もあるかもしれません、この2年間の学びで得られるものは日々の講義はもちろんのこと、異業種且つ年齢構成もバラバラな同期と共に同じ時間を過ごせる事が財産になると思います。是非その仲間に加わりませんか？

◎香川県・市町とのプロジェクト研究交流会

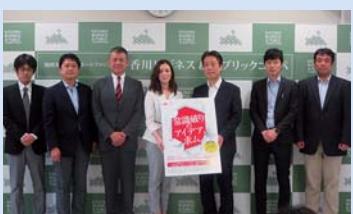
Presentation



2016年8月に、本研究科MBAの2年次の最終成果である「プロジェクト研究」の内容を香川県や市町の政策へ反映頂くために自治体職員との交流会を開催しました。「地域スポーツの未来像についての提言」、「法規制を担当する地方公務員のメンタルヘルス対策」、「八間川にホタルが舞う日プロジェクト」、「要介護認定者を中心とした地域ICTサポートシステムの提案」、「高松市の薬剤師と薬局経営者のための地域ポータルサイトビジネス」、「離島における通信販売ビジネスモデルの構築」、「民間アーティスト・イン・レジデンスの研究」など、優れた研究内容を2016年3月に修了した7名の本研究科11期生が報告しています。

香川ビジネス&パブリックコンペ

香川を元気にするビジネスや地域活性化のアイデアを募集し、そのすぐれたプランの実現を支援する「香川ビジネス&パブリックコンペ2016」が、協賛企業や自治体・関係諸団体のご協力を得て開催されました(共催:香川大学大学院地域マネジメント研究科)。4年目を迎えた今年は、よりエッジの効いたプランが集まるよう「広報強化」と「賞の見直し」を軸に改善し、71件の応募をいただきました。書類に基づく一次審査を通過したビジネス部門5件、パブリック部門5件、計10件のプランについて、地域マネジメント研究科教員6名が指導を行い、その成果を2016年11月の公開審査会において発表いただき、受賞者を決定しました。ビジネス部門グランプリは、西村美樹・阿部洋・荒井理宏・大矢翔司・岸上健の地マネ1年生チームによる廃棄ムール貝を活用した新ブランド商品開発によるさぬき市活性化のプランが、またパブリック部門グランプリは、川染彗・坂本知恵里のお二人による廃校活用による香川県へのUターン就活の拠点づくりのプランが受賞しました。パブリック部門審査員特別賞は、石井秀文さんの四国お遍路の険しいルートを用いたハイクライム自転車レースを行うプラン、ビジネス部門審査員特別賞は山瀬正裕さんの離島をつなぐ海上タクシーなどの船の予約を一括で行い船の乗り合いを促進する統合プラットフォーム作成プランが獲得しました。新設の地域スポーツビジネス特別賞には、武智雅宏さんの地元プロスポーツ選手と子供達の交流を促進するスポーツ振興プランが受賞しました。2017年2月には、政策プレゼンテーション&ミーティングを開催し、行政政策担当者や金融機関等とのマッチングを実施し、プラン実現への支援を進めています。全体のレベルが更に上がっており、優れたプランが集まって来ていますし、前年度グランプリ二つの取組みは全国版の新聞に掲載されるなど着実に動いており、コンペに対する関心、期待が高まっています。



◎学生主体のシンポジウム開催

Symposium

毎年、MBAの1年生が中心となって企画・運営を行うシンポジウムを開催しています。うるう年と「丙申(ひのえさる)」の年が重なる2016年は、「60年に1度の逆打ちの年」と言うことで、テレビ新聞でも相次いで取り上げられ、また巡礼者も増加する中、「四国遍路」をテーマとしました。このシンポジウムは、地域社会への情報発信のみならず、一つの行事を組織的に遂行することの難しさを学生が体験し、相互の一体感を醸成する機会もあります。



◎合宿～地域活性化の先進地訪問～

Training camp

フィールド・スタディの一環として、地域リーダーの講義を実際のフィールドで学ぶ『合宿研修』を毎年行っています。2016年度は、徳島県海部郡美波町を訪問しました。南阿波よくばり体験推進協議会事務局長西沢猛氏の講義(本研究科地域基礎科目「四国経済事情(地域活性化と地域資源)」)、徳島県神山町のサテライトオフィスプロジェクトを提案した株式会社あわえの取締役COO兼任事業開発部部長である山下拓未氏の講演を実施しました。



◎学生プロジェクト

Project

森のようちえんプロジェクト 12期生 白井 章江

「森のようちえん」って知っていますか?園舎を持たず、保育のほとんどを「森」で過ごし、その中で子どもたちは自然体験をたくさん経験し、自ら考える力や、思いやりを養うことができるようえんです。香川で、この「森のようちえん」の行う提案をプロジェクト研究で行いました。社会的実験として、2016年12月4日に高松市西植田町・ドングリランドにて「森であそぼ!森のようちえん体験会」を開催しました。冬の初めの香川の森の中で、大人53人、子ども36人の参加者で、森はおおにぎわい。講演を聴いたり、火おこしをしたり、たき火でマシュマロやソーセージを焼いたり、自然散策に出かけたりし、「森のようちえん」の楽しさ、おもしろさ、大きさを体験していただきました。



ひとり親家庭プロジェクト 12期生 小笠原 由子

多くのシングルマザーは「時間の貧困」にあり、それを原因として「親子で過ごす時間」や「文化、芸術体験」の不足といった子育て課題を抱えています。ひとり親家庭プロジェクトでは、その課題解消を目的として、使い捨てカメラを用いて瀬戸内国際芸術祭の作品撮影を行う「子どもカメラ部」と、クリッキーハウスづくり「お菓子の家をつくろう」という2回のイベントを開催し、親子の共同体験の機会を創出しました。イベント参加をとおし、親子関係の向上や参加児童の自己肯定感が高まったことが確認されています。



主な勤務先(過去5年間)

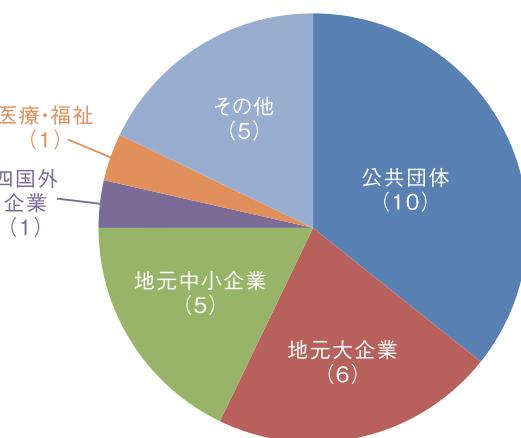
◎公的機関

香川県庁・高松市役所・坂出市役所・東かがわ市役所・さぬき市・国土交通省・松山大学・香川短期大学 他

◎民間企業

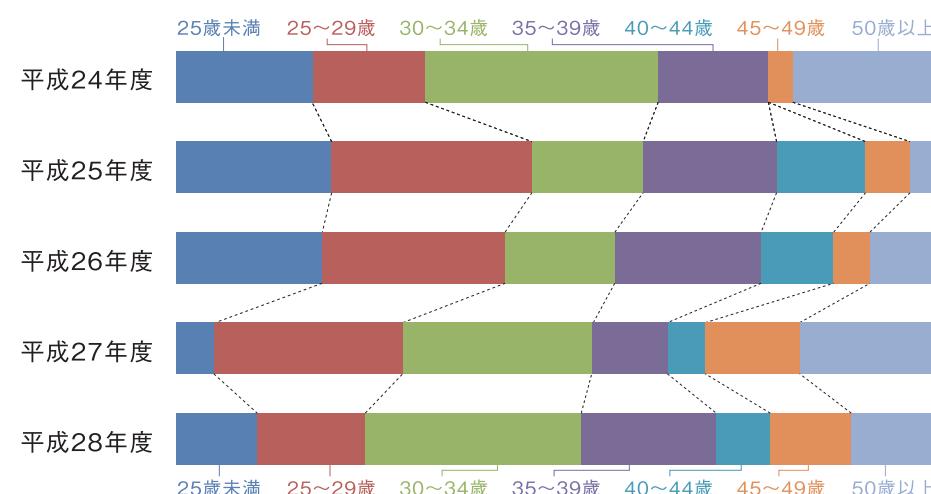
四国旅客鉄道・百十四銀行・四国電力・阿波銀行・四電工・四電エンジニアリング・大倉工業・南海プライウッド・四国化成・セーラー広告・日本政策金融公庫・損害保険ジャパン日本興亜・穴吹コミュニティ 他

勤務先別構成(平成28年度入学者)

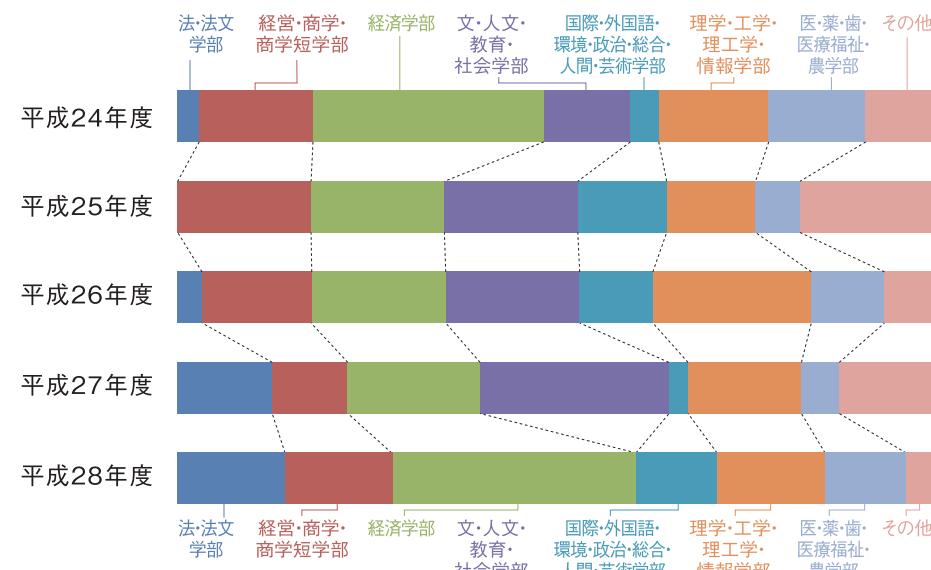


構成比

年齢別構成



出身学部別構成



修学助成の一例

教育訓練給付制度

2014年10月1日から、「教育訓練給付金」の給付内容が拡充されました。香川大学大学院地域マネジメント研究科は、厚生労働大臣より専門的・実践的な教育訓練先として指定を受け、給付金の給付割合の引き上げと追加支給が適用される事となりました。当研究科では入学金と2年間の授業料の(支給要件に見合えば最大で)60%が支給されます。支給要件など詳しくは、ハローワークが出している「専門実践教育訓練の給付金のご案内」をご参照ください。

入試の考え方

入学試験においては、上記と整合的な志望動機や将来の計画を有しているか、カリキュラムを受講するにあたって必要な論理性・表現力を有しているかについて、小論文および書類・面接により審査します。なお、社会人選抜試験によって受験する者については、小論文を免除する代わりに、社会的経験を踏まえたより多角的な書類・面接審査を実施します。

■入学者選抜(一般選抜および社会人選抜)を、夏期、秋期、冬期の3期に分けて行います。

	検査日時	出願期間
夏期	2017年 7月8日(土)	2017年 6月14日(水)～6月30日(金)
秋期	2017年 10月14日(土)	2017年 9月20日(水)～10月6日(金)
冬期	2018年 2月10日(土)	2018年 1月17日(水)～2月5日(金)

■選抜方法の概要是次図に示したとおりです。

